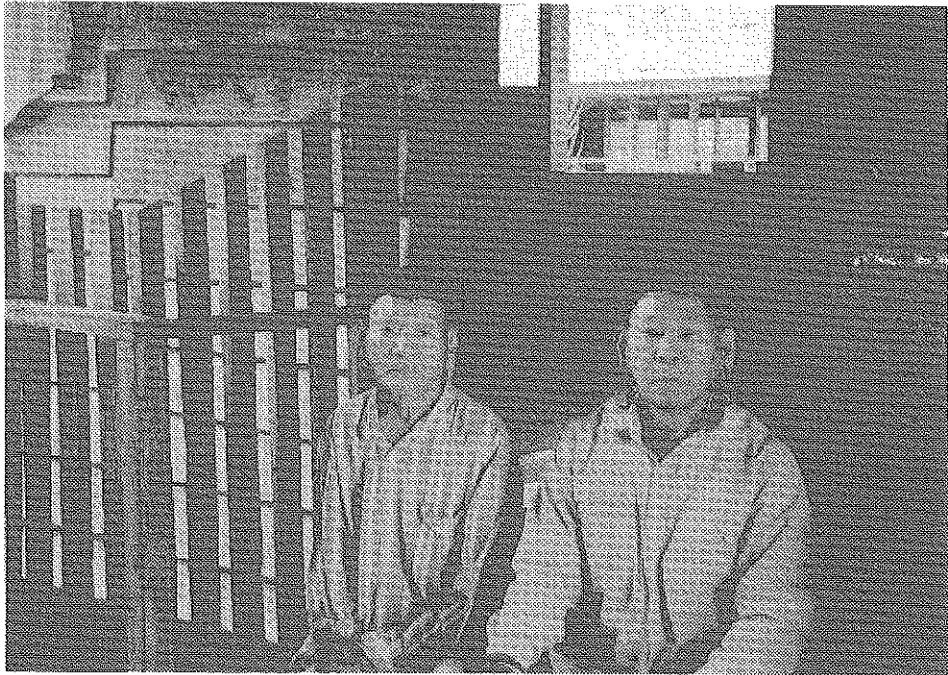


Save The Tropical Forests



森の通信

2011.9.28



▲ 狩猟採集民プアンの伐採阻止最強の故・ケラセイ・オアーン村長(左)  
と弟と弟(2008年サラワク州最奥地近く・クローン村)

CONTENTS

- people 22 wiiP・Yoyok(ヨヨ)氏…… 3P
- セコニャル川の村へ・興村知恵…… 4P
- タンジョン・アティン公園 ハラペン村で…… 6P
- 「ラミン村取引は終わりました」…… 8P
- 希望の村の苗づくりをホルネオ全土に伝えたい…… 11P
- 希望の村での村お話し インドネシア スコニョル村…… 12P
- ホルネオ・エコツアーのお知らせ…… 14P
- ひらりんのこと エコツアーのあめ…… 15P
- 世界の森林ニュース…… 18P
- ウータンより 井下祥子…… 19P

「Lamandau(ラマンドウ)が火事だって！」と Friends of National Parks Foundation(FNPF)の Basuki(バスキ)氏の顔が引きつる。私たちがインドネシア・中カリマンタンのタンジュン・プティン公園園ハラバン村に着く夜に。第一陣の船は、既に火災現場へ向かうためクマイ町へ向かっていた。私たちは火災を詳しく知らぬまま村に着いたのだった。本来、明後日8月20日に、私と前川さんと村人で荒地にされたラマンドウ森林保護区へ植林実施地の確認の予定だった。

19日、タンジュン・プティン公園内部のブグル地区の火災後に植林した HUTAN Group の地を早々と後にして、Basuki(バスキ)たちは昼過ぎに先発して行っていたハドラン氏から電話を待つ。

「どんどん火災が拡大して、ラマンドウの Friends of National Parks Foundation の植林地の小尾近くまで火が向かっている」とハドランから緊張した声が夕方に届く。メンバーはそれを確認する。

火災が拡大したのだ。バスキたちは私たちを迎えることもしなければならず、ラマンドウに8名行く予定を考えていたが、既に二隻の船がなく、バイク等でも9時間かかり、決めあぐねていた。

「私たちは全員ここに残ってもよい。鎮火が優先だ」と私はバスキに告げた。

「ラマンドウの植林支援をウータンがしてくれるから、1人が消火に来てもらうほうが良い」とバスキ。

私たち2名でラマンドウ行きを決めていたが、1人しか行けなく「前川さん、残ってくれ」と告げた。

もの見事に違法伐採され、森がない Lamandau。どこまでもどこまでも草だけだった。ここが森林保護区なのだ。Telapak、Green Peace 等が違法伐採と告発した森。Barito Pacific 社、Korindo 社、Tanjung Lingga 社が寄って集って禿地にした。既に森はない。オランウータンもいない。

昼前、あちこちから火災がまた発生。火が台風の水のように煽られ、違法伐採で切られて草原になった大地が次々と燃え広がる。200m 先に炎が燃え盛りだし、全員で鎮火活動をする。火を消し止めても、1Km 先の草原や、3Km 先の大地が次々と強風にあおられ、火災となる。まだ消防車が来ない。40万 ha の保護区のうち15万 ha が燃えた。先発のハドランたちは一睡もせずに消火活動をした。

大人数での消火活動と、少し残った森が火を鎮めたのだ。こんなに少しの森でも火災を止める力があると初めて知った。森があれば火災も止めやすいのだ。泥炭湿地の多いカリマンタンで違法伐採、アブラヤシ農園拡大は火災を引き起こしやすいし、村の生活を全て台無しにするのだ。(西岡)

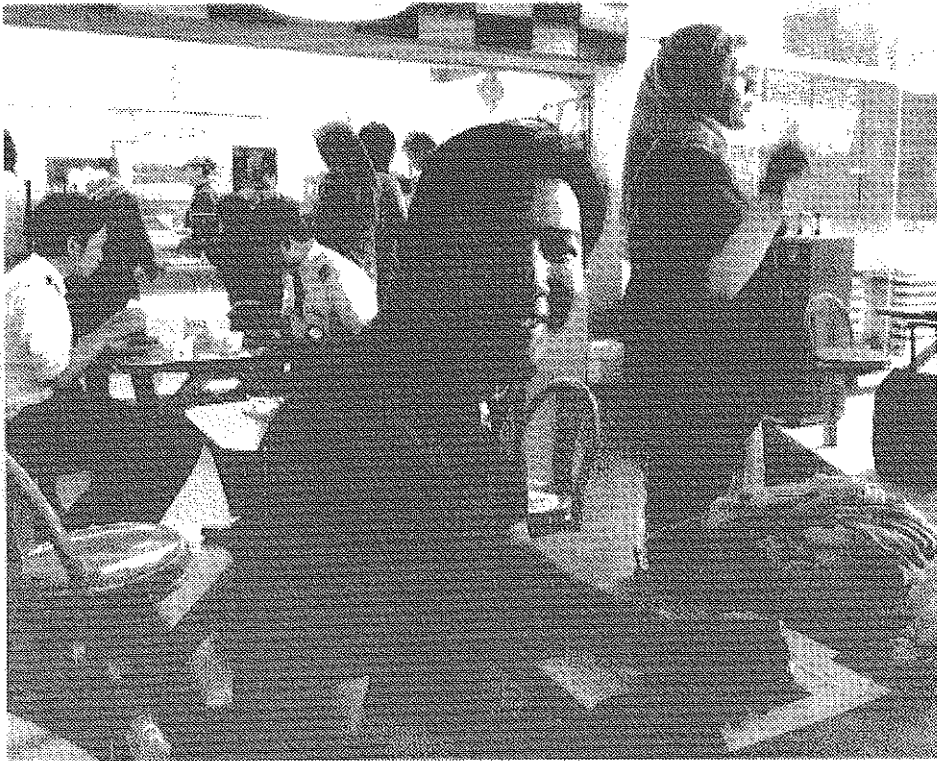
### 【ウータン活動報告】

- 2011・6・14 ウータン会議で国際森林年10月集会イベント確認
- 6・28 「通信ウータン101号」発送
- 6・30-7・4 高阪、大平がタンジュン・プティン公園へ、再植林確認、植林作成用の冊子打合せ
- 7・12 ウータン会議で、10月日本各地の集会開催に向けゲスト最終依頼
- 8・17-8・21 西岡、前川、奥村知恵がタンジュン・プティン公園へ。植林、火災鎮火、看板作成
- 8・22-9・1 西岡、前川、藤原がWWF ユニオン氏らと東カリマンタン、サバ州の密輸材調査-密輸東カリマンタン~サバ州へ激減！ 木材工場ヒアリング等も
- 9・11 国際森林イベント第1回「希望の村の植林と村おこし~オランウータンの森を守る」  
\* 報告/石崎、高阪、前川\* 大阪市中之島公会堂、満席・立見
- 9・12 10月招聘の Basuki、Yoyok(ヨヨ)氏への Invitation Letter、日本の宿泊予約等メール

# People(22) save! the World's Forests

—Wetlands International Indonesia Program の若きリーダー・Yoyok 氏—

気候変動国際会議等にアジアの湿地で起きていることを報告の Wetlands International インドネシア・プログラムの Iwan Tri Cahyo Wibisono (通称 Yoyok/ヨヨ) 氏



(写真・前川 / 文・西岡)

今年のラマダン明けの8月31日、ジャカルタ空港で会う。当初ヨヨ氏は8月30日までインドネシアのフローレス島で調査・会議であり、Wetlands International Indonesia プログラムの事務所がある Bogor (ボゴール) 市で会う予定だった。会議が短縮でき、彼もラマダン休暇を取れるとなり、急遽場所を変更したのだ。ウータンが招聘する意義・目的を話すと、彼は即座にのみこみ、重要な点のみ質問する。それが一段落すると、バスが渋滞して Bogor からの空港バスで遅れている妻に電話する。なかなかインドネシア人に出来ない早業。国際会議に慣れているからだろう。故郷はジャワ島ジョクジャカルタ市の郊外だそうだ。招聘する2人のうち Basuki (バスキ) 氏が情熱・行動の人物なら、Yoyok (ヨヨ) 氏は Wetlands Inter インドネシア・プログラムの森林スペシャリストで、冷静・行動の人だ。どちらも30代後半で、次代のリーダーだろう。「ユドヨノ大統領が森林伐採・泥炭湿地につき新規伐採許可を2年間停止のモラトリアムと表明していたが、昨年末に突然、工業大臣、林業大臣が許可を与えたように油断できない。違法伐採はかなり減少したが、アブラヤシ開発等で泥炭湿地が破壊され CO2 大発生が一番の問題。私たちはそれに対応して行きたい。招聘してもらおうが、日本も Tsunami で大変だろう」と。心優しき、クレバーな若者だ。

## タンジュン・プティン国立公園からの報告⑤

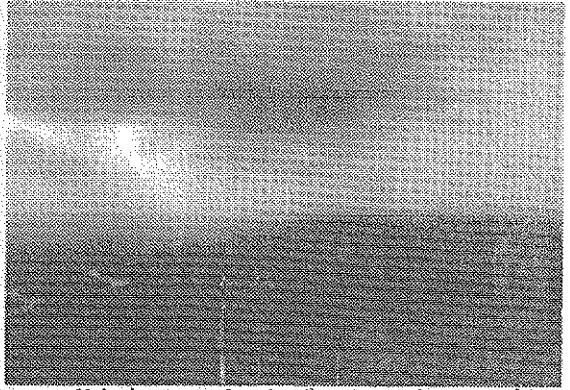
## セコニヤール川の村へ――

奥村知恵

8月中頃の熱帯夜に、私たちはジャカルタ空港に到着した。

私にとって初めてのインドネシアでもあり、HUTANの活動を海外にて行うのも初めてであったので、どうなるのだろうか、ちゃんとやっていけるのかという期待と緊張と高揚感でいっぱいであった。私が今回セコニヤール村へいくことになった経緯は村と違法伐採に対する看板を描くこと、植林をしに行くことである。

その日夜遅く飛行機は到着し、インドネシア NGO の Telapak(テラパック)の Yayat(ヤヤット)さんにお会いして、Yayatさん、前川さん、西岡さんと私で話す。ジャカルタのホテルに泊まり翌日、パンガランプンへ向けて出発した。空上から見たパンガランプンは国立公園があるためか見渡す限り熱帯雨林が続いているように見受けられる。



Basuki(バスキ)さんとお会いして村へ案内してもらおう。村は川の奥まった場所にあるので私たちはスピードボートに乗り込み村へいく。

夕暮れ時の茜色の空、太陽が映りこみ変わりゆく川はとても美しく、案内してくれた人々はみな優しく暖かい。都会好きな私が田舎の素晴らしさに触れた瞬間であった。村につくとあたりは暗くなっており川の畔の川床のような場所で夕食を頂く。空を見上げるとあたりいちめんに瞬くような美しい天の川が見えた。このような素晴らしい場所を人々の利益によって破壊されていくことを私たち個人単位で守りたいものだ。

次の日、看板作りを開始する。Basukiさんや村の人々、前川さん、西岡さんとアイデアを出し合いセコニヤール村のPRが描かれたボード、違法伐採に対する看板を作ることになった。アイデアも皆で考え、それを私が絵にして下書きしていき、皆さんに塗装・着色を手伝って貰った。

村の方々は皆優しく、ずっと付ききりでお手伝いして下さった方もいた。看板作りの合間を縫って人生初のオランウータンの餌やりを見たり村の中を見せてもらった。村には子供たちがたくさんいて、とても楽しそうに堀で泳いだり遊んでいるのを見て、微笑ましく感じつい日本の子供のあり方を比較してしまった。働かないといけなから、7歳までしか学校に通っていないという人も、私と同じ位の年の女の子でもう既に一児の母、という人もいた。村の他にアブラヤシのプランテーションも見せてもらった。

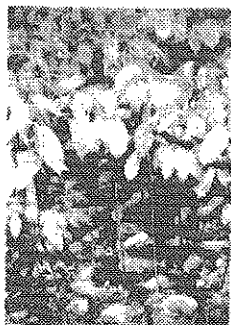


アブラヤシは数多くの商業品、食べ物にも含まれていて、そのヤシをプランテーションで育て地元の人々・動物や豊かな自然環境を破壊していくことを卓上で学んでいたが私達日本人にとっては遠い、あまり危機的な問題ではないと人ごとの様に感じていただけであった。実際に見ると広範囲でプランテーションが行われており人々や動物の生活を圧迫していて、何かせねばならないという気持ちに駆られる。



次の日、沢山の方に看板作りを手伝ってもらいようやく完成した。村の方々は本当に最後まで手伝ってくれ、力仕事も手伝ってくれて、本当にいい場所に来たと実感する。看板作りを行っている間観光客でインドネシアの大学で美術を教えているというロシアの方と偶然知り合ったりすることもでき一期一会のよい出逢いになれた。やはり英語は学べば学ぶ程よいと思い、もっと語学勉強に励もうと感じさせられた。そして村の方々に別れを告げセコニャール川を後にした。

この旅で私は高校、大学と色々勉強してきているが自分の国を出てしまえばまだまだ何も知らない無知な状態であることを思い知らされると同時に日本とインドネシア、国や文化が異なるといえど今までの自分の生き方や考え方の甘さを痛烈に感じた。高校や大学で学んだことなんか全く通用しない、自分がちっぽけな存在であったことに対してもっと多くのことを知っていきたいと感じた。これまで海外の色んな場所を訪問してきたが、ボランティア=仕事として海外へ行くのは初めてであり、ただたんに観光するよりも多くのことを学び、たくさんの方々と触れあうことが出来た。最後に村の方々、前川さん、西岡さん、色々協力していただいて本当にありがとうございました。心から感謝しています。



左)ウリンの植林 右)オランウータン

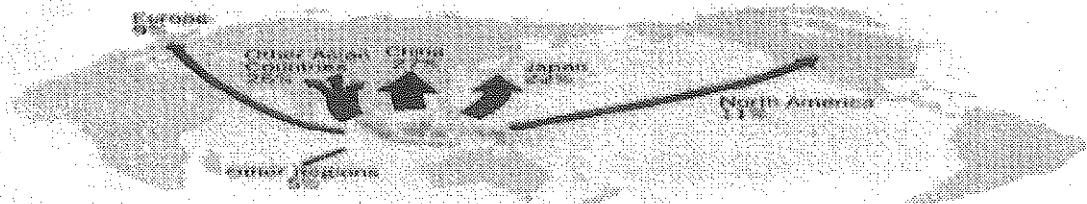


# 違法伐採から再植林 村おこし..

## タンジュン・プティン国立公園ハラパン村で

\*\*\* 写真等で追うタンジュン・プティン国立公園 \*\*\*

(2001年のインドネシアからの違法材の流れ)



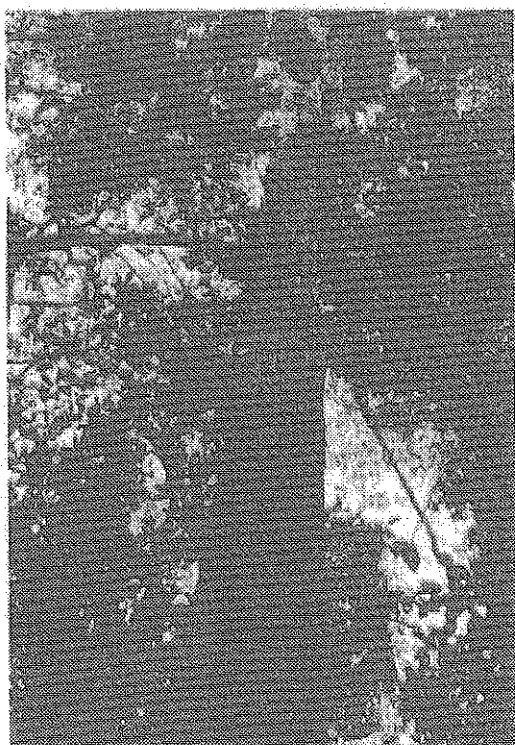
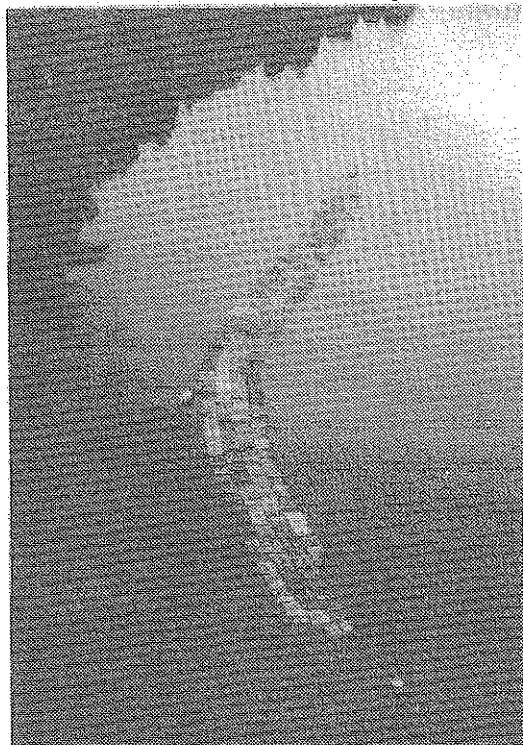
\*1993年から2005年までのタンジュン・プティン国立公園での違法伐採・森林面積の減少



Figure 10: Deforestation in Tanjung Puting, one of the 19 national parks affected by logging and oil palm plantations.



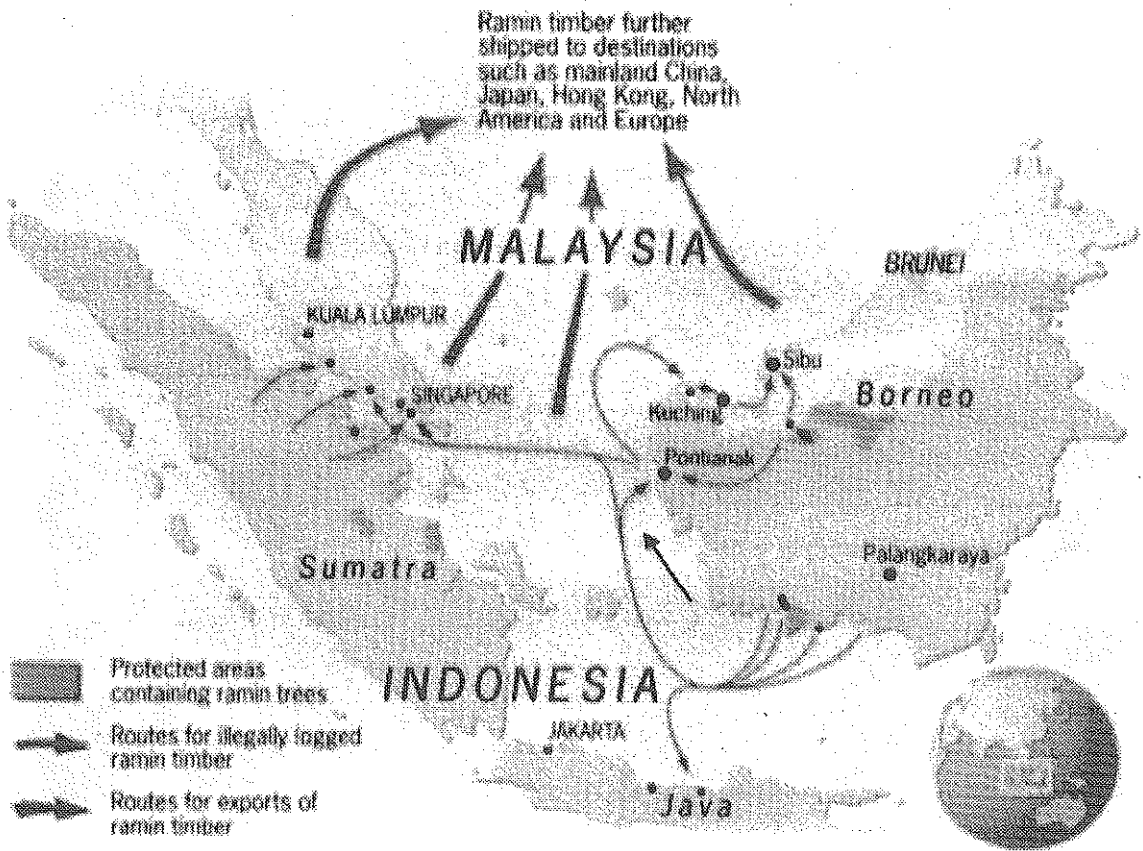
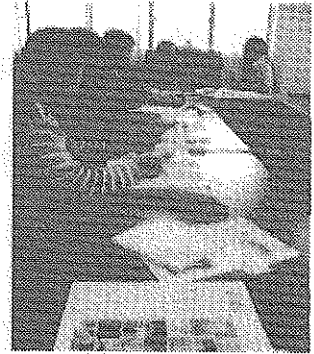
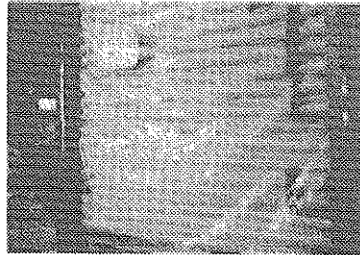
(左/違法伐採恐怖のオランウータン by HUTAN&Telapak \* 右/2000年タンジュン・ブティン公園の違法伐採)



(左/違法伐採後保護種ラミンを密輸 by Telapak/2001 右/Sg.ブル・クチルに残ったラミン by HUTAN2005)



(左/タンジュン・ブティン国立公園で違法伐採 Tanjung Lingga 社 2000/ Sg.Buluh Kecil で違法伐採の跡 2005)



インドネシア、マレーシア等の泥炭湿地に生息するラミンは過剰な伐採により絶滅の危機に瀕して、2001年ワシントン条約(※1)で貿易が規制された以降もインドネシア国立公園や保護区等で違法伐採・密輸されていた。

インドネシアNGO Telapak、国際環境NGOのEIAは、1990年後半より希少種ラミンの保全、違法伐採の調査・告発、森林保護を行うために活動を繰り広げてきた。

日本で1999年のTelapakの来日以降、ラミン調査会、ウータン・森と生活を考える会、FOE Japan、JATAN(熱帯林行動ネットワーク)などが中心となって、日本へ輸入・販売されるラミンの調査を行ってきた。日本は世界有数のラミン輸入国だったからでもある。



ウータン等は【やれば出来る！違法材停止・ラミンキャンペーン】として、ラミンの輸入・使用の日本企業などに働きかけた。その結果2007年4月、日本で使用量の約95%に相当する500社がラミンの輸入・取扱いを停止した。

2006年、シンガポールのラミンの輸入企業の8割も停止。TelapakとEIAの活躍で、半島マレーシアのジョホール・バルのかなりの輸入企業がラミン停止した。またインドネシア政府の取組みで、主要な木材市場ではラミンの販売が困難になってきた。加えて2007年4月、EUのラミン輸入の一時停止により、密輸されるラミンの販売は世界的に一層困難になってきた。

近年の日本、EU、インドネシアをはじめとする国際的な違法伐採・違法貿易対策で、今後ラミンは1-2年でほぼ販売が不可能になるだろう。

私たちや多くのNGOが今後も連携・協力して、インドネシア、マレーシア政府に停止を再度依頼したり、輸入企業にラミン使用停止を働きかけていけば、全世界的な取引が完全に停止されるだろう。

ここに私たちは、【違法材ラミン密輸停止宣言】を発する。

希少種ラミンの世界的な取引停止に近づき、絶滅危惧種のアランウータン、テングザル、ギボンなど多くの動物たちも徐々に生息域を回復することができるようになるだろう。

熱帯林保全にとって大きな勝利であり、成果でもある。みんなが努力すれば必ず停止できる。

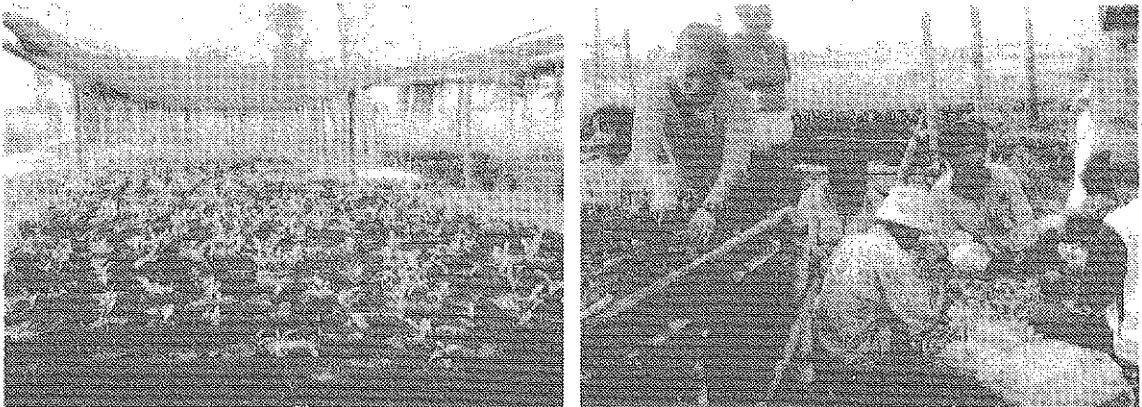
\*\*2007年6月 Telapak、ウータン等での[違法ラミン材停止宣言]のダイジェストより\*\*\*

2008年、日本では750社がラミンを使用停止し、半島マレーシアのマレーシア木材協議会の傘下の企業はラミンの販売を停止したことを2009年、招聘した当時のインドネシア林業大臣相談役Togu氏らと確認。ボルネオ島で密輸がかなり困難になり、現在、ほぼ国際的なラミン取引停止となった。

遡れば2006年にタンジュン・プティン国立公園の全体約40万haで全て違法伐採がなくなった。2007年に木材市場のあるパンカランブン市で「違法材ラミンの販売が出来なくなる」というニュースを私たちの仲間が現地訪問で、確認した。2010年にはタンジュン・プティン国立公園で違法伐採していた全ての企業はどうも閉鎖せざるを得なくなった。

一方、泥炭湿地に多く生えていたラミンはことごとく切られ、タンジュン・プティン国立公園で違法伐採に従事していた村人たちが2003-2004年に違法伐採する木材マフィアと抗争し、2005年にタンジュン・プティンに来たFriends of National Parks Foundation(FNPF)のBasuki(バスキ)氏らが来て、植林活動を始めた。村人達も植林活動に参加した。

2006年違法伐採するより収入になりだした植林活動に大半が参加したのがタンジュン・ハラパン村である。



(タンジュン・ハラパン村での植林活動の開始 2006・2007年 by Friends of National Parks Foundation)



(左の上と下/植林風景 右の上と下/野生のオランウータン(Sg.Bhluk)と保護のオランウータン)



## FNPF(Friends of National Parks Foundation)の活動

2005年から野生生物のクリニックの地としてタンジュン・プティン国立公園で活動を開始。例えば、違法伐採等の恐怖におののくオランウータンのケアも1つであり、ギボンや小鳥たちの保全を含め、元の生態系への状況を調査してきた。FNPFはオランウータンが元の野生に戻れるような保全を目指し、動物たちが棲める森の復元へと活動を広げた。そのリーダーが今回招聘した Basuki(バスキ)氏である。

今、植林が必要だ。森林破壊や火災、アブラヤシ開発等で毎年森が減少しているから。

FNPFは地元住民と一緒に、ウリン、ジュルトン、ニャトー、ガハルー、ラミンなど47種の原生種の樹木を10万本の苗を植えた。多くの原生種の樹木を植えることで、豊かな生態系を復元させることになるからだ。村は希望に満ちている—まさしく名前のとおり「希望の村」ハラパン村では、希望が溢れている。

# 希望の村の苗づくりをボルネオ全土に伝えたい！！

## ～植林用冊子づくり～

2011年7月、植林用冊子のイラストを担当するアレックスさんと一緒にインドネシア・カリマンタン・タンジュンハラパン村を訪れた。

植林用冊子のできばえは、原稿を担当するFNPFのバスキさん（以下敬称略）とイラストを担当するアレックスさん（以下敬称略）の相性にかかってくる。バスキとアレックスが会うのは今回で2回目。5月にISSYがインドネシアを訪れた時に会って以来だ。

アレックスは、とてもジェントルマンでおもしろいに一ちゃんだった。私は、バスキとアレックス、2人の兄貴ができた気分だった。

バスキもアレックスもまるで昔からの親友のように、夜通しおしゃべりをしていた。何を話しているのかと盗み聞きしてみると、「〇〇では、住民が川の清掃をした。」「〇〇では、オランウータンが捕獲された。」など、環境やコミュニティ開発についての話をしていた。2人ともとっても真面目で熱心。

### <植林用冊子づくりについての打ち合わせ>

苗作り組合（スコニョールレスタリーグループ）のメンバーも交えて、バスキとアレックスと植林用冊子づくりについての打ち合わせを行った。この冊子づくりは、『タンジュンハラパン村の取組みをボルネオ全土に広げたい！』という思いからスタートした。

冊子をいくらつくってもその冊子が使われなかったら意味がない。バスキに配布可能冊子数について尋ねると、『1万冊でも2万冊でも配布先はある。普段から現地政府、NGOと協力関係ができており、そのネットワークをつかって配布する。』と。

また、バスキが考えている原稿のストーリーは、『昔は人と森が共生していた。その後、生活のために人々は商業伐採などの森林破壊を行わざるを得なかった。しかし、これからは、苗作りやエコツーリズム、農業などにより、人と森が共生した社会を築いていく。』というものだった。

イラストを担当するアレックスの方から『バスキの原稿ができたら、もう1度ここへ来て、バスキと話したい。原稿に書かれていることの意図を電話だけで理解するのは難しいから。』と提案があった。そこで、私は『アレックスがボゴールに来るのはだめなのか？』と聞いてみた。すると、アレックスとバスキが口をそろえて『この冊子は、バスキだけがつくる冊子ではない。村人全員でつくる冊子だ。だから村人全員をボゴールに招待するか、アレックスを村に招待するのかのどちらかだ。』と。このことから、私はアレックスは冊子づくりの意図をとても理解してくれていると確信し、素敵な人たちが集まってきてるなぁと感動した。

(MAHO)



アレックス

バスキ

# 希望の村での村おこし

～ インドネシア 加マナン ケジュンハラパン (スニコヨール) 村 ～

(MAHO)

## 村人がFNPFの真似をしました… 植林用の苗をつかってビジネスに！

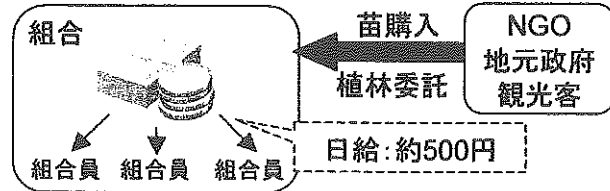
2009年はじめ

前組合長トツフィーの提案、村の有志20人が賛同



SEKONYER LESTARI GROUP 設立  
(持続可能なスニコヨール川組合)

### 【組合のお金の流れ】



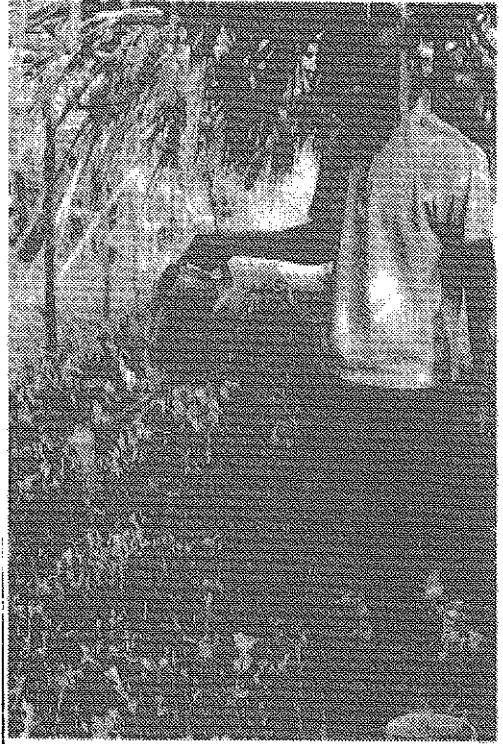
### 【組合員の仕事】

- ①種等集め ②ポット植え ③水やり ④植林&管理

### 【組合員の思い】

ほとんどの組合員は、元違法伐採従事者…

- ・最初は植林という考え自体を理解するのに戸惑ったが、今では誇りに思う。
- ・組合活動により、定期的な収入源ができた。
- ・村にずっといたい！村全体の幸せを望む。



## 自分たちの知識・経験を子どもたちに伝えたい… 月1回の子どもたちへの環境教育



2010年1月

子どもたちへの環境教育スタート(月1回実施)

FNPF、村の小学校、村人との協働事業

### 【環境教育の内容】

- ・植物の名前や使い方について御勉強
- ・ゲーム
- ・森の中でのサバイバル(料理)
- ・森の中で大合唱♪
- ・大人たちの(組合の)仕事のお手伝い(種集め)

### 【子どもたちの思い】

大きくなったら、どこに住みたい？

村に住みたい！

景色もいいし、森があって落ち着くから。

お金持ちになったら何が欲しい？

家(8人)、土地(1人)、車(1人)、何も要らない



## 苗づくり以外にも現金収入を得る道… 村をあげてのツーリズム

欧米人の観光スポット  
(オランウータン等の野生生物の宝庫)

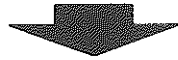


エコツーリズム組合発足  
組合長はバネ、村人の有志20人が賛同

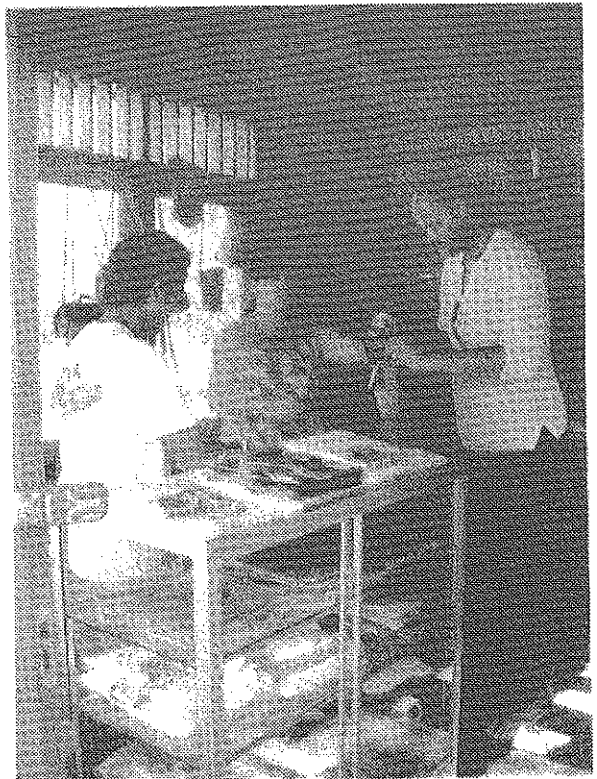
村で唯一のロッジFlora Homestayの経営者  
(2008年オープン、2011年現在宿泊者:4組)

2010年  
政府の助成により、村にお土産屋さん建設  
お土産は村人の手作り

2011年  
村とウータンGとの協働でエコツアーを企画  
2011年7月、村人との第1回目ミーティング開催



エコツアー開催！！  
2012年1月7日(土)～13日(金)  
\* 詳しくは別添チラシをご覧ください。



## 自分たちの村は自分たちで守るんだ！ アブラヤシ農園開発への抗議活動



拡大するアブラヤシ農園  
村の土地をアブラヤシ農園会社が勝手に開墾

2011年7月  
これまでの怒りが爆発！！  
・抗議デモの実施  
・水抜きのために農園会社がつくった水路を封鎖  
(埋め戻し)

村の活動を支えているのは…

**FNPFスタッフ バスキさん**

【バスキさんの思い】

100年前: 森と人が共生



10年前: 人が森を破壊



これから: 再び森と人が共生

(村の取組みを他の村に広めるために冊子の原稿を作成中)

バスキさん来日！  
10/16(日)大阪集會  
10/17(月)京都集會



# 【予告】木を植える人たちに出会う

【2012年1月7日～13日】

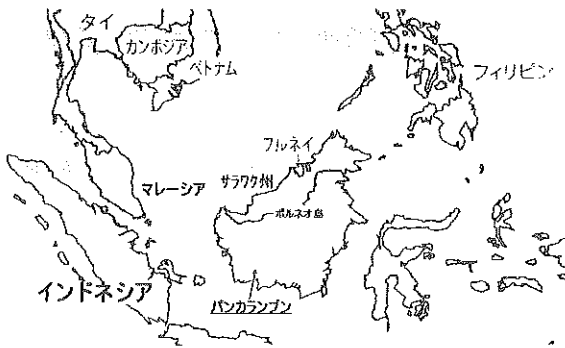
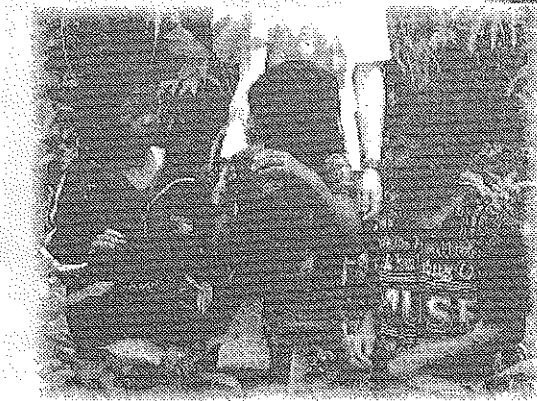
赤道直下、オランウータンも棲む、豊かな熱帯林に覆われた野生生物の宝庫、ボルネオ島。近年、商業伐採や、ポテトチップスなどにも使われるパーム油の原料アブラヤシの大規模なプランテーション開発により、森がどんどん減っています。そんな中、苗を育て、木を植え、森を再生することを生業にしている人たちがいます。実は、彼らも7年ほど前までは商業伐採を行っていました。

## ～希望の苗作りプロジェクト～



ボルネオ  
エコー  
シア

インドネシアのNGO、FNPFのサポートのもと、彼らは、今まで当たり前にあった「森」について改めて考え、祖先から受け継いだ伝統と智慧をいかして、森と共に生きる道を選びました。そして、その思いを子どもたちへ受け継ぐため、毎月、村全体で環境教育を行っています。木を切る人から木を植える人へ、希望の苗作りをしている人たちに出会いませんか。



1/7 土	関西空港→ジャカルタ	午前: 関西空港集合 ＜ジャカルタ泊＞
1/8 日 ↓	ジャカルタ →パンカランプン →タンジュンハラバン村 (3泊4日)	・原生の種による苗作り ・オランウータンの棲む森を歩く ・子どもたちと環境教育 ・現地NGOスタッフとの交流 ・植林用冊子を使った植林体験 ・アブラヤシプランテーション訪問 など ＜ホームステイ＞
1/11 水	タンジュンハラバン村 →パンカランプン→ジャカルタ	ポゴールへ移動 ＜ポゴール泊＞
1/12 木	ポゴール→ジャカルタ	・NGO訪問・ポゴール観光 ジャカルタ經由関空へ
1/13 金	→関西空港	早朝着、解散

### ■ 企画／呼びかけ ウータン・森と生活を考える会

■ 2012年1月7日(土)～13日(金)早朝着

※関西空港発着。他空港発着についてはお問合せください

### ■ 旅行代金：未定

※空港使用料、航空保険料、燃油特別付加運賃は別途必要です

■ 最少催行人員5名 ※早めのお申込をお願いします

■ 利用航空会社：未定

■ 添乗員：同行しません

■ 現地に詳しいスタッフが関西空港からご案内いたします  
※お渡しする旅行条件説明書面をご確認のうえお申込ください

### ■ ウータン・森と生活を考える会

世界中で激減する森林、特に原生林の保護と、そこに住む先住民の権利を守る活動です。日本の木材消費により、東南アジア、ソロモン諸島、アフリカなどで資源が枯渇しつつあります。またカナダ、オーストラリアの原生林は紙の材料として日本で多量に消費されます。世界の森を守りましょう！

■ お申込み・お問い合わせ先

株式会社マイチケット

〒565-0084 松江市真砂川町4-27-1 FAX 06-4869-6777

☎ 06-4869-3444

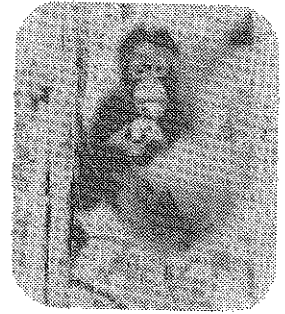
www.myticket.jp

myticket@nifty.com

エアワールドが



## ひらりんの... エコツアーのすすめ ボルネオ島希望の村へ原種の苗木作り



◆地球の緑の屋根を形成しているボルネオ島へ、4年ぶりに行ってきました。

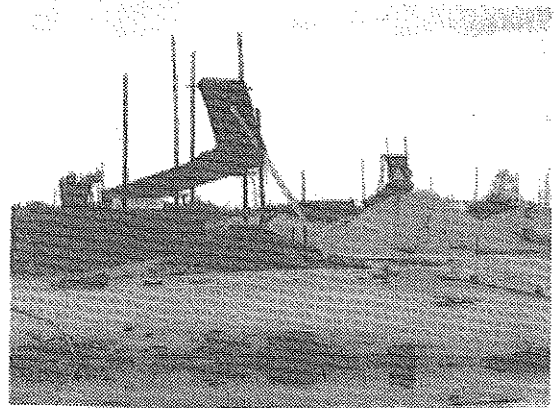
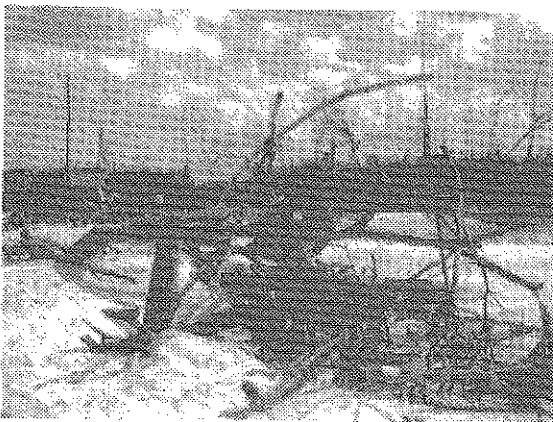
インドネシアのカリマンタン(ボルネオ島)のタンジュンハラバン村！  
もうウータン読者の皆様にはおなじみの村ですよ～♪..そう、私たちが  
希望の村と呼んでいる、土地の原種の苗木を作り、破壊された森に植林を進めている村です。  
この村を支援するNGOの同志、バスキーの案内と村の方々のご協力で、2泊の短い滞在でしたが、  
とても他では味わえない充実した旅となりました。この経験は宝物です。その1部をご紹介します。



今回は、村の入り口に建つフローラホームステイというロッジに  
2泊(7/1・2)。クマイの町からボートで川をさかのぼってきて、  
ボートから村への棧橋へ降り立つと、背後にはもう熱帯雨林の  
森が迫ってる。ボルネオに  
しかないテングザルが  
やってくる。ロッジは、村の  
少年達の職場でもある。  
→右の写真は、川面に  
浮かぶ食堂！  
ボートが通るとゆ～らゆら、  
面白いよ☆



今回の旅仲間は(=語学堪能・旅の使命を果たす重要な役割を担う彼女に頼りっ放しでした)、何度か  
村を訪問してすっかり村人に溶け込んでいる女性ですが、その彼女がぜひ私にもみてほしいと、早速ボート  
に再び乗り込み向かった場所は、..。

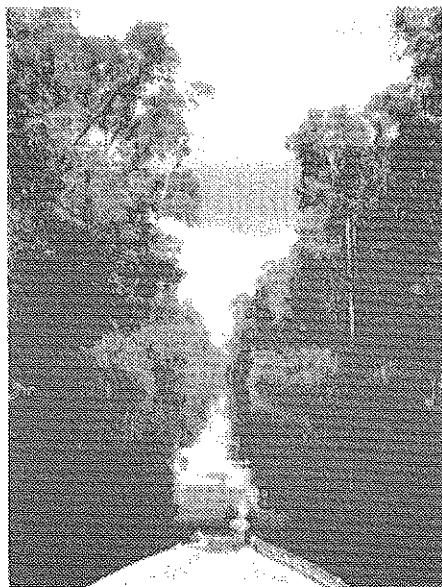


砂金やセラミック状の細かい土を採集する現場でした。森がこんな殺伐とした風景に変わってしまうとは。  
緑の屋根(森の木々)がないので、熱中症になりそうです。人は生きていく為なら、どんな仕事をして  
も許されるのでしょうか..? 違う選択肢があれば、環境を変えることもできるはず。

この現場より上流は、昔からの美しい川のままです。

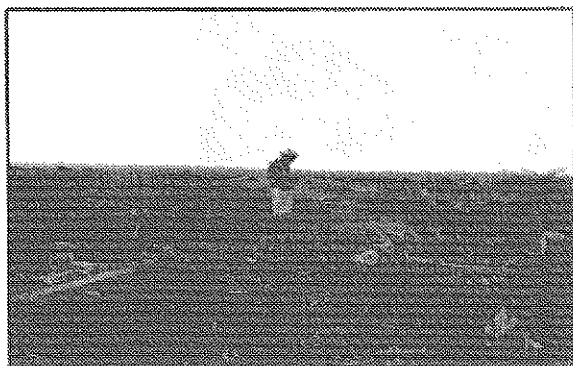
河底に堆積した落葉からタンニンが出て茶色ですが、とても透明度の高い澄んだきれいな水です。

この現場から下流になると、白濁して川底は見えなくなります。有害なものも眼には見えないのです。



← 左:水が澄んでいる上流は、鏡のように風景が映って、  
上と下に同じ景色が広がるが、↑ 上の写真は、開発で汚れた

川は、まるでミルクティを流したような白濁色。……(白黒印刷でみるとこの差がわからないかも?!)  
次に、川からではなく村の路を陸路でバスキーが案内してくれた場所は、、、。

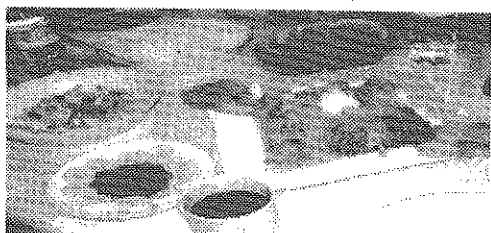


＜荒れ地にポツンと立っているのは、ウータンが  
進める冊子作りのイラスト担当のアレックス＞

バイクの後ろにまたがって、1時間。村の境界付近には、村の森が広がっているはずだったが、この風景！  
果てしない荒れ地。勝手に油ヤシプランテーションの会社に森を伐採されてしまったという。

でも、穏やかな表情でバスキーは、言う。私たちは村人と共にすぐに抗議活動を行って、森を取り戻したい  
と。次回8月に訪れるチームに、その支援をバトンタッチ。油ヤシ製品を多く消費する日本で、支援の輪が  
広がることで、少しでも彼らの活動の支えになれば、と思う。

バイクで帰る間に陽は落ちて、。。 かなた地平線に広がる森に望みをたくして、バイクを運転してくれてる  
バスキーに話しかける。「また、あんな森にもどるといいね」・・・「あれは、油ヤシのプランテーションだよ！」  
あちゃ～!(@\_@;) どこまで広がるプランテーション!? ポルネオの豊かな熱帯雨林の森はどこに?



さて、ロッジの楽しみ、ディナーです♪

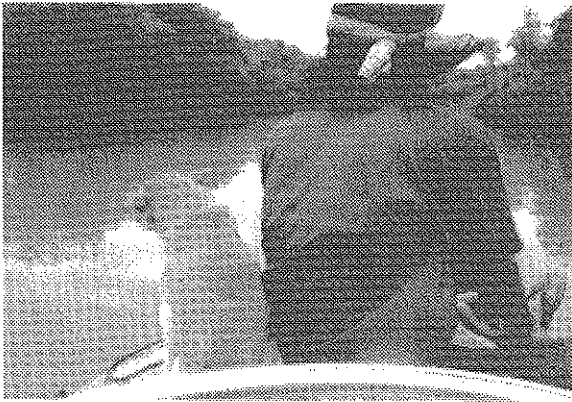
ロッジオーナーのバナは、料理上手だ。

チキンもエビも野菜料理も、みんな美味しい☆☆☆

…星、3つつですう!!

《今日の現実を知って、明日は希望の苗木を作る》





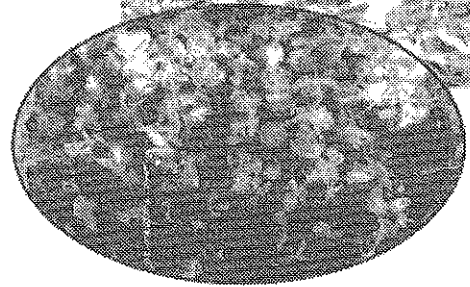
← バスキーの相棒?! カヌー犬、その名も  
レンジャー。

二人一緒にボートで移動する時の定位置。  
移動は、ボートが速い。

《未来への希望を託す、希望の村の苗木  
作り》の作業場へ。



15名程の  
村人で  
この土地  
の原生種  
の木  
の苗木を  
作って、  
植林  
している。



私が手伝った苗木♪ ⇒

↓ タンジュンプディン国立公園入り口の木道に



寝そべて餌を  
おねだりする保  
護されて育った  
オランウータン  
「ギブミー!  
フォレスト」  
→ 右の写真は  
野生のオランウ  
ータンだ。



← 村の子供達。ジャンケンみたいなことをしていた。仲間  
にいて～♪…村では、民家に泊ってもらって、ジャワ  
更紗のサロンを着たり、一緒に料理したり、現状を知って  
もらって、苗木を作ったり植えたり、ジャングルトレッキングに  
自然観察等々、この村ならではの体験ツアーを考えて  
いる。こんなボルネオエコツアーが、村人の植林を支え  
る事にもつながって、地球にちよっぴり恩返し。楽しくて気  
持ちいいですよ。来年スタートです! (記:ひらりん) 17

## 【サラワク先住民、アブラヤシ企業に勝利？】

アブラヤシ大手企業相手にマレーシア・サラワクの狩猟採集民の団体は、熱帯林を狙うアブラヤシ企業を相手に勝利したと。サバイバル・インターナショナルによると、マレーシアのシンヤン木材はムルダムの道路建設に向けプナン族再定住を予定の地域を破壊、植林していると。同社は政府の承認まで同地域で作業中止と。

また、ブルーノ・マンサ・ファンド(BMF)及びオーストラリア緑の党党首ボブ・ブラウン上院議員は、タイプサラワク州首相の親族経営の木材会社タアン・グループが支援するWWF戦略を批判。BMFはジェームス・リーブWWFインター事務局長へ手紙でタアン・ホールディング及びその子会社がWWFの協力団体となると主張。「同社は東南アジア最大の墮落木材会社で、WWFはネットワーク切断を」とBMFが報告。(資料:サバイバル・インターナショナル7/14とBruno Mansar Fund 8/7より)

## 【インドネシアNGO、森林保全の権利を】

森林群落、地元民の権利をインドネシア政府が承認。NGO連合体・権利と資源とイニシアチブ(RRI)によると、森林破壊を遅らせる効果が期待され、地元民を含めた従来の森林利用者の権利をインドネシア政府が承認、尊重、保護することになりそうだ。ロンボク島の森林会議の講演で、インドネシア大統領のREDD+タスクフォース委員長クントロ・マンクスプロト氏は、慣習法上の権利の認証が要求される10年前の法律の適用へ向け、インドネシア政府が早急に対応と。(資料:Mongabay.com. 7/12日)

## 【中国、世界一の木材輸入・製材生産】

2011年上半年の中国木材輸入量は2011年1月からの原木輸入量は2075万m<sup>3</sup>で、昨年と比べ25%増加。製材の輸入量は同53%増の約1000万m<sup>3</sup>。合板の需要量の増加に伴い、2011年上半年の中国の合板の輸出は大幅増で、総輸出量は459万m<sup>3</sup>となり、史上最高と。(資料:7月のフェアウッド・キャンペーン News)

## 【パプア・ニューギニアの違法伐採企業に罰金】

パプア・ニューギニアで「違法伐採で木材会社に1億ドル罰金」と画期的な裁判所の判決。裁判官は「マレーシア木材社 Concord Pacificが環境破壊をし、森林部族に支払いを。損害は計り知れない。伐採で住民生活を破壊し、多大な影響を与えた」と1800人部族民と4名の環境専門家の陳述告知。(Mongabay.com. /6/28)

## 【FSCカーボンオフセットでNGO内で物議】

FSC(森林管理協議会)総会で27議案が可決されたが、エンバイロメンタル・ファイナンスのカーボンオフセット事業へ加担でNGOが分裂物議を醸す。炭素蓄積する森林の環境価値を承認した議決が可決。グリーンピース・インターは、この議決が「当団体の理念と基準に炭素貯蔵への明確な加担を示すことが森林の炭素価値を適切に承認し持続する事を確実にするために極めて重要だ」と。(FSCとフェアウッド News)

## 【Telapak等プレス、日本震災へ合法材使用を】

TelapakとEIAは、「日本が再建のために合法木材のみを求めるべき。インドネシアにとって、復興への援助の呼びかけは、確実な合法材・合法な製品のみが輸出されるよう新木材の法規制に着手する時」と記者会見。日本政府は、被害で再建に200万枚のベニヤ板を必要とし、同国から援助要請の検討を指摘。(資料 Telapak)

## 【ブラジル、巨大ダム着工認可、森林は・・・？】

ブラジル政府は、北部パラ州のアマゾン熱帯林に建設する世界3位規模の巨大水力発電ダムの着工を承認した。支流のシンゲー(Xingu)川に建設が予定されるペロモンテ水力ダムは、総工費110億ドル、発電量は同国の今の電力供給量11%に相当する1万1200メガワットと。だが、ダムが完成すれば熱帯林516Km<sup>2</sup>が水没し、1万6000人が立ち退きとなり、地元先住民や環境団体、カトリック教会は建設に強く反対している。建設受注企業連合ホルテ・エネルギーは雇用拡大と言う。(資料:AFP/7・29)

# ▶ ウータンより ◀

ウータン会計 9月号. \$td

<会費・カンパ等をいただいた方> (敬称略) (2011.6.1~2011.8.31)

井下祥子 井原美鈴 助友伸子 中原敦 NGO自敬寺・服部隆志 二木洋子 宮澤朔子

皆様、本当にありがとうございます。大切に使用させていただきます。  
\*領収書の必要な方は、お手数ですが、振込用紙にその旨ご記入ください。

<おたよりから>

- \*カンパとして、わずかですがお役立てください。
- \*活動に賛同します。

<<ゆうちょ銀行に口座をお持ちの方へ>>

郵貯のATMから「電信振替」で会費をご送金いただくと、振り込み料は無料です。  
(口座番号 00930-4-3880)

8月末に、ボランティアバスで岩手に行ってきました。  
現地視察1日と泥出しや通学路の草取り作業1日だけですが、被害の広大さに茫然としました。

大槌町、釜石、大船渡、陸前高田、南三陸町・・・

破壊され、焼け焦げた中心部。

高齢者も一緒に避難した急坂。つないでいた手を津波に離してしまった話。

女性職員が避難放送を続けて亡くなった、鉄骨だけ建物の建物。

廃墟になった病院、高齢者施設。

大量のガレキを集めた山に、小さく見える重機が何台もとりついている。

地盤沈下で水没したままの港・・・

覚悟していたハエや臭気は改善されていましたが、半年近くたっても、破壊の跡が生々しく、復興のすすんでいないことに、

一同ショックを受けました。

「阪神淡路の（復興の）1週間が、東北は1か月かかっている」各地の災害復旧にたずさわってきたボランティアの言葉です。

泥出し作業してる私たちに、靴のまま上られるようにダンボールをひいて家のトイレを使わせてくださった近所の人。

「ホタテやわかめをとっていたが、船をやられた」というおじいさん。

道に立てられていた、「支援ありがとうございました」「きっと復興します！」などの看板に胸が熱くなりました。

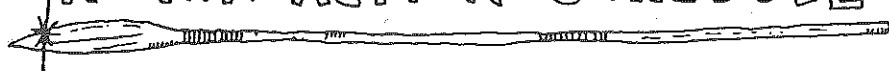
物のあふれる関西に戻ると、民放の番組欄から「震災」はすっかり消えていました。

自分に何ができるか、と考えています。

機会のあるかたは、自分の目で現場をみていただければ、と思います。「忘れていない」というメッセージにもなると思います。

(会計 井下)

# HUTAN ACTION SCHEDULE



\* 国際森林年イベント・Part1, 2「世界の熱帯林を守れ! 温暖化防止を!」インドネシア NGOs 報告 \*  
Osaka, Kyoto 集會主催・ウータン 協力 \* ラミン調査会、後援 \* 環境市民、京のアジェンダ 21 フォーラム

## 10月16日(日)午後6:30-9:00 [オランウータンを守れ! 泥炭湿地の保全を] 大阪集會

場所 \* 大阪ドーンセンター(天満橋駅から徒歩5分)/Tel)06-6910-8500 参加費 \* 無料・カンパのみ  
ゲスト講演 \* Friends of National Parks Foundation(FNPF)/Basuki Budi Santoso(通称/バスキ)氏  
「タンジュン・プテイン公園での再植林、オランウータンの保護、村おこしへ」  
Wetlands International インドネシア・プログラム/Iwan Tri Cahyo Wibisono(通称/ヨヨ)氏  
「泥炭湿地破壊の問題、保全への課題」

## 10月17日(月)午後6:30-9:00 [オランウータンを守れ! 泥炭湿地の保全を] 京都集會

場所 \* ひと・まち交流館京都清水五条から南8分)/Tel)075-354-8711 参加費 \* 無料・カンパ  
ゲスト講演 \* Friends of National Parks Foundation(FNPF)/Basuki Budi Santoso(通称/バスキ)氏  
Wetlands International インドネシア・プログラム/Iwan Tri Cahyo Wibisono(通称/ヨヨ)氏  
講演の内容は、大阪集會と同じ、大阪・京都問合せ \* Tel)072-252-0505(西岡/ウータン)

## 10月20日(木)「熱帯林を守れ! Save オランウータン、村落林保護、泥炭湿地の保全を」静岡集會

午後6:30-8:30 場所 \* アイセル21(静岡) Tel)054-246-6191 参加費 \* 無料・カンパ  
主催 \* JATAN 静岡、ウータン、JATAN /協力 \* ゴミゼロプラン静岡、市民ネットワーク等  
ゲスト講演 \* Friends of National Parks バスキ氏、Wetlands Inter ヨヨ氏^2名は大阪、京都集會と同  
Mitra Insani 財団の Zainuri Hasim 氏、 問合せ \* Tel)054-294-9063(鳥居/JATAN 静岡)

## 10月21日(金)P2:00-8:30 場所 \* 早稲田奉仕園・03-3205-5401 東京集會 \* 国際森林年イベント

「インドネシア熱帯林保全に向けて～生物多様性、気候変動、地域住民を脅かす泥炭湿地開発への対策」  
主催 \* JATAN、RANJapan、FoEJapan、メコン・ウォッチ、ウータン、協力 \* GEC、JANNI  
参加費 \* 1000円(資料代等) /問合せ \* [JATAN]メール Tel \* info@jatan.org/03-5269-5097



## ウータン・森と生活を考える会

[OFFICE] 〒530-0015 大阪市北区中崎西1-6-36  
サクラビル新館308  
「関西市民連合」気付  
Tel.06-6372-1561

<http://www.hutang.jimdo.com>

【一部】300円 【年会費】4000円

【郵便振替】00930-4-3880

◎購読希望の方は郵便振替で申し込み下さるか、又事務所までご連絡下さい。

◎ウータン定例会は、毎月、第2、第4火曜日7:00pmより「関西市民連合」事務所にて行っております。